

平成14年11月21日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 小野木 克明

プロセスシステム工学第143委員会

第140回委員会・平成14年度第4回研究会 開催通知

(143委員会ホームページ <http://jsps143.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>)

1. 日 時：2002年12月13日（金）13:00～17:00
2. 場 所：キャンパスプラザ京都（京都市下京区西洞院通塩小路下ル／電話：075-353-9111）
（交通：JR 京都駅下車・京都中央郵便局西側
開催場所については次のホームページをご覧ください。
<http://www.consortium.or.jp/campusplaza/>）
3. 委員会：(13:00～13:10)
4. 研究会：(13:10～17:00) テーマ：「化学プロセス操業の最適化」
 - 13:10～14:10 「化学プロセスの動的最適化手法とオンライン最適運転への適用」
京都大学 野田 賢 委員
＜概要＞計算機の急激な発展に伴って、厳密な数式モデルに基づく化学プロセスの動的最適操作法の導出が可能となってきた。本講演では、化学プロセスの動的最適化手法の研究動向について紹介したのち、動的最適化手法のオンライン最適運転支援システムへの適用について述べる。
 - 14:10～15:10 「モデル予測制御と最適性－線形モデル予測制御から非線形モデル予測制御へ」
三菱化学(株) 小河 守正 氏、京都大学 大嶋 正裕 委員
＜概要＞モデル予測制御の研究は、線形モデル予測制御から非線形モデル予測制御に現在移っている。そのなかで、非線形モデルを取り扱うことによって、何が良くなりまた何が問題になるのかについて、最適性、可解性、安定性の観点から議論したい。また、現実に適用されている非線形モデル予測制御の事例を紹介する。
 - 15:10～15:30 コーヒーブレイク
 - 15:30～16:30 「最適化ツールの現状」
(株)アスペンテックジャパン 高橋 徹 氏
＜概要＞最適化ツールの現状について、最近の技術動向、従来との技術上相違点などを解説する。特に、利用すべきモデルとその使い方について、およびソフトウェア体系（AspenPlus との相違点など）について説明する。フロアーとのディスカッションを通して、議論を深めていきたい。
 - 16:30～17:00 総合討論

<追記>

準備の都合がありますので、出欠を裏面にご記入の上、12月6日（金）までにご回答下さい。

[送信先]

名古屋大学工学研究科 分子化学工学専攻 小野木 克明 FAX：052-789-3267